

和泊町

福祉ボランティア講座

学校における福祉教育の充実をめざして

鹿児島県社会福祉協議会は平成12年度からボランティア活動の普及・啓発を図るため7月から8月を「ボランティア体験月間」として活動を推進しています。

市町村では福祉教育の充実を図るため学校の教職員や市民を対象にした「福祉ボランティア講座」及び小学生・中学生・高校生のボランティア体験学習を開催し充実した活動が展開されています。毎年ボランティア体験月間には200団体・4,000人前後の小・中・高校生が多岐にわたるボランティア体験活動に参加しています。

特に和泊町社会福祉協議会は平成17年度から毎年夏休み期間を利用し「教職員福祉ボランティア講座」を開催しています。今年度は7月28日和泊町防災センター等で教職員15名を対象に実施しました。

研修内容は学校における福祉教育のすすめ方や、福祉施設でのボランティア体験、災害時の非常炊き出し体験、福祉用具を使った高齢者疑似体験など充実した講座が開催されました。このような研修会が県内各市町村で開かれるよう期待します。



紙すき体験



保育所での教材づくり



災害時の炊き出し体験



アイマスク体験

1 学校における福祉教育のすすめ方

福祉教育には、3つの学習領域（学校の児童・生徒、地域住民、福祉教育専門家）があり、学校教育では、ノーマライゼーションの理念に基づき児童・生徒一人ひとりがお互い尊重し、認め合い、他人への思いやりの心がもてるような指導が必要です。

特に学校では「福祉」の観点に立って、すべての教科、領域で学習させ、総合的な学習の時間を活用し推進する必要があります。

また、施設訪問や手話・点字等の体験学習、疑似体験活動では、体験学習の目的を明確にし、子どもたちに主体的に考えさせ、振り返りをしっかりと行うことが重要です。

2 福祉施設でのボランティア体験

参加者が2グループに分かれて、和泊保育所と障害者就労支援施設「さねん」で、ボランティア体験をしました。保育所では、保育教材づくりに挑戦しすばらしい教材ができました。

「さねん」では、管理者の外山真司さんから施設の概要や作業内容等について説明を受け、施設利用者と一緒に牛乳の空き箱を利用した「紙すき体験」をしました。参加者は、再生された葉書に大喜び。

ボランティア体験とエコ体験で施設利用者との交流を深めました。

3 脳のトレーニング体験

災害時の非常炊き出し体験や車椅子、アイマスク、高齢者シュミレーターなど福祉機材を使った高齢者疑似体験、認知症予防のための「脳のトレーニング体験」に挑戦しました。

特に「脳のトレーニング体験」では、①脳の司令塔、前頭前野を鍛える活動 ②脳の診断テスト（記憶力、判断力、集中力など） ③あなたの脳は何十代？ など教材を使って体験しました。

また、和泊町では元気高齢者を対象に、毎週土曜日、認知症予防のための教室を開設し、町民から大変喜ばれています。

◆活動についての問い合わせ先◆

和泊町社会福祉協議会

(TEL 0997 - 92 - 2299)

〒891 - 9112 大島郡和泊町字石川平 39 - 3 (社会福祉センター)